

障がいを持つ人たちに働く場を提供しながら
スマート農業に取り組み、地域に貢献。



1 2023年9月、通常のコンバインと、障がいを持つスタッフが乗車するアシスト付きコンバインの両方で米の収穫作業を実施 2 「日本一おいしい米になるように」との願いを込めて名付けられた「いっちょらい」 3 2021年に、ふくいブランド米推進協議会「いちほまれコンテスト」の特別栽培米部門で最高賞を受賞

農業と福祉をつなげた農福連携を推進。

農業は、担い手の高齢化などが原因で、耕作されなくなった農地が放置されるなどの課題をかかえています。

あわら農楽ファームは、農業と福祉を結び付けた農福連携により、障がいを持つ人たちに働く場を提供すると同時に農業の担い手として育成し、地域に貢献することを目的にしています。米を中心に、大豆、そば、柿、いちご、メロン、さつまいもなどを栽培し、かきもちやジャムなど農産加工品の製造・販売と、観光いちご園の運営も実施。現在、10数名の障がいのあるスタッフが、職員とともにこれらの仕事を行っています。

スマート農業で農産物の品質が向上。

また、化学肥料や農薬をできるだけ使用しないなど、自然環境にやさしい農業に取り組んでいます。近年は、農産物の品質向上と職員の勤務時間短縮などを目的し、ロボットやAIなどの先端技術を活用したスマート農業をスタート。生産管理システムやドローン、ロボット田植機、アシスト付コンバインなどの導入によって作業が効率化され、障がいのあるスタッフの仕事の幅も広がっています。また、そのスタッフを支える職員の能力向上のために、自主的に資格や免許を取得する場合の教育訓練休暇制度が設けられています。

教えて！ あわら農楽ファーム のすごいところ

Q 会社の自慢を教えてください！

A 農業を通じた障がい者の社会参加を支援しながら、ロボットやAIなどの技術を活用したスマート農業に取り組んでいます。アシスト付きコンバイン(写真)は、スマートフォンを取り付けて位置情報を把握すれば、スタートとストップの操作のみで作業を進めることができ、障がいのあるスタッフにも乗車してもらっています。農福連携とスマート農業の両方を実践している全国でも数少ない会社です。



Q この先、目指していることは？

A スマート農業をさらに進化させ、オンリーワン・ナンバーワンの農産物生産と加工品製造を目指します。フルーツライン沿いに広がる坂井北部丘陵地の景観を生かした観光農園の増設、スイーツ作りやスマート農業が体験できる環境整備を行い、あわら市を訪れる人の増加に貢献したいと考えます。また、職員や障がいを持つ人が笑顔で伸び伸びと働ける職場環境づくりに一層取り組んでいきます。



気になること、
聞いて
みました。



執行役員
齋藤 峰雄さん

Q 仕事にはどんな人を求めていますか？

A 農業が大好きでまじめにコツコツ取り組める人、パソコンなど情報技術に関心がある人。共同で作業するため、他の人と協力し合えることも大事です。農業経験がない人も大歓迎です。

Q 就活中の皆さんにメッセージをお願いします。

A 最新技術の利用が進む農業は今、大きな変化の時代を迎えています。生命を生み育てる重要な産業である農業を、新しい形で発展させるには若い力が必要です。皆さんの活躍に期待します。

こんな職場です

仕事の現状を知らせ合い
情報を共有する。



毎朝職員会議を開き、一人一人の作業の進み具合や困っていること、当日の予定などを説明し合い、全員が他の職員の状況を把握して、仕事に取り組んでいます。

有限会社 あわら農楽ファーム

〒919-0601 あわら市山室72-101
TEL. 0776-73-5955 FAX.0776-73-5477
http://www.awara-nougaku.jp info@awara-nougaku.jp

設立:2001年/代表:代表取締役 齋藤 恭弘/資本金:500万円/従業員数:4人/平均年齢:56歳/勤務地:あわら市/勤務時間 8:30~17:30/福利厚生: 社保完備、退職金制度、教育訓練休暇制度、健康診断 等

Uターン
採用企業

中学生
職場体験
受入れ企業

Iターン
受入れ企業

公式WEBサイト

